

20年を祝して



社会医療法人社団 三思会 会長

中 佳 一



とうめい厚木クリニック創立20周年おめでとうございます。昨年、病院は創立40周年を迎えることが出来ました。本当にめでたくありがたいことです。

ふり返ってみますと、病院からクリニックの独立は我が国の医療政策で病院と診療所との機能分化の流れに主体的に取り組んだ結果であり、また当法人施設の「事業体化」の流れの選択でもありました。病院は、紹介、救急患者に特化し、診療所は幅広い一般診療に専念するという、当時の政府の医療政策、診療報酬体系の整備の中で、いち早く、「総合診療所」開設として別棟分離に手上げし、チャレンジしたのがとうめい厚木クリニックでした。この選択は法人の経営にも一定の果実をもたらしました。

クリニックは独立の事業体として現在のTAMS棟（健診センター棟）に移転独立し、スタートしました。病院の3号館へそれまでのTAMS棟（健診センター棟）にあった透析センター、健診センターが移動配置されたと記憶しております。分離独立後のとうめい厚木クリニックの初代院長が現野村理事長であり、当時の病院長は間下先生、副院長は現平塚老健の桐山先生であったと記憶しております。

クリニックの総合的外来診療施設としての評判は大変良く、手狭になり、現在のクリニック棟へ新築、移転となりました。その後山田先生が長い間院長職を務められた後、現在の河野先生にリーダーシップが受け継がれ、芝看護師長、和田事務長はじめ、職員一丸となった貢献の下、患者さん、地域の方々、連携医療機関の方々に信頼される総合クリニックへ、たゆまぬご尽力をいただいていることは誰しも認めるところであります。

20周年を迎えさらなるマグネットクリニック※へ着実に前進されることを期待するものです。

20周年おめでとう。

※患者・医師・看護師を磁石のように引きつけて放さない、魅力あるクリニック

とうめい厚木クリニック開設20周年に寄せて



社会医療法人社団 三思会 理事長

野村直樹



とうめい厚木クリニック開設20周年おめでとうございます。とうめい厚木クリニックは2002年2月25日、東名厚木病院の外来部門を分離し、総合的なクリニックとして開設されました。小生が初代院長を務めさせていただきました。病院は入院患者様に対し多職種をもって総合的にお支えする、一方クリニックは外来患者様に対し地域の窓口的役割をもってお支えする。それぞれに異なる理念方針のもと効率的で丁寧な患者様対応を志す、これが当時の合言葉であったと思います。

最初は現在の健診センターを改築しての出発でした。新しく電子カルテと完全予約制を導入し従来の病院外来機能に加え、眼科を新設し、また総合診療科も開設しました。設立当初は1日平均350名ほどの患者様を拝見していたと思います。そして2007年12月、現在の土地に新築移転され生まれ変わりました。患者数も550名～600名となり、当初の建物では十分な医療供給が不可能であるとの判断でした。新たに小児科の新設やこの近隣にはないペインクリニックの導入、また耳鼻咽喉科の招聘もできました。また西洋医学のみではなく、鍼灸マッサージ師に常勤いただき、東洋医学のコラボを目指したりもしました。小生は約9年院長を務め、その後桐山誠一先生、山田拓司先生そして河野昌史先生に継承いただいています。地域医療の窓口としての発展とともに、このコロナ禍において地域に対する大きな役割を担っていただいております。

これからもこの地域においてなくてはならない存在として、ますますの発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

20周年記念行事メンバー・編集者



倉島 秀太・四宮 明宏・杉野森 奈未・住吉 加奈・鈴木 喜絵・安藤 真依子・星野 麻衣